

Title	康有為の犬養毅(木堂)宛書翰：近代日中関係の新史料
Sub Title	A letter of K'ang Yu-wei (康有為) addressed to Inukai Tsuyoshi (犬養毅)
Author	和田, 博徳(Wada, Hironori)
Publisher	三田史学会
Publication year	1980
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.49, No.4 (1980. 3) ,p.118(396), 126(404)- 118(396), 126(404)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	研究ノート
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19800300-0118">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19800300-0118</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 康有為の犬養毅(木堂)宛書翰

——近代日中関係の新史料——

和田 博 徳

最近、岡山県の「犬養毅(木堂)関係資料収集委員会」への寄贈資料の中に、中国近代における変法運動の指導者として名高い康有為から犬養毅へ宛てた左の写真(一二六頁掲載)の如き行草体の漢文書翰一通が発見された。この書翰は近代の日本・中国関係史上、貴重な興味深い史料であるが、その解読を共同通信社岡山支局の須田浩靖氏より依頼されたので、つぎに句読点・返点を付けて紹介する。

我兩國、同教同文、較泰西各國、其情最親、其辦事亦有不同。我邦通人、側首東望、莫不在此、並不引公法也、以我兩國自有經義可引、所以深得敵國人心者、亦在此經義而已。聞貴國憲法、太后・皇后、亦在臣列、此即經法与敵國同

之者也。今偽醇朝之篡廢、在西人公法認之、且以爲託于訓政、亦以公法免干預內政之故。惟我兩邦、兄弟唇齒、其情親而勢逼、似有不能以西人公法論者。若坐令寡君憂死、而偽醇朝擁幼主而擅權、外分內訌、支那必亡。高樓大廈之傾、其旁隣亦為危牆所压、似不能不議支柱之也。

この中で、「寡君憂死」とあるのは、清朝の光緒帝が西太后に幽閉されて死去したことを指し、「偽醇朝擁幼主而擅權」とあるのは、醇親王が西太后の遺志により、幼児の宣統帝を擁立して摂政となった事実を言うものに相違ない。従って、この書翰は年月日の記載が全くないけれども、光緒帝と西太后が相次いで死去し、宣統

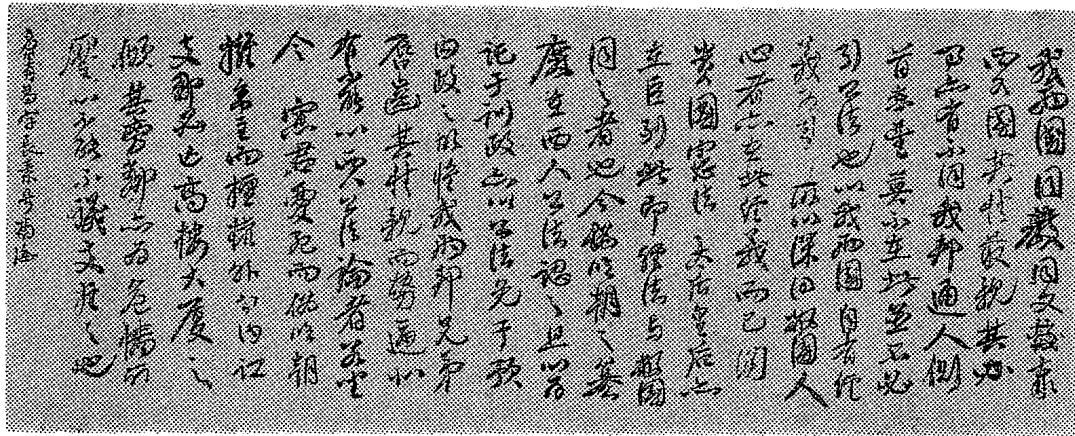
〔以下一二六頁へ続く〕

〔二一八頁より続く〕

帝が即位した直後に当たる一九〇八（明治四十一年・光緒三十四年）十二月か翌年初め頃に書かれたものと推定できるであろう。

周知の如く、光緒帝を戴いて変法運動を進めた康有為は、一八九八年の戊戌政変を経て日本に亡命した後も、なお西太后ら守旧派の打倒および光緒帝の権力復帰による変法運動の再興を図っていた。その康有為にとって、一九〇八年十一月に光緒帝が死去し、続いて同年十二月に西太后の遺志を継ぐ醇親王政権が成立したことは、極めて深刻な衝撃であったと思われる。犬養毅に支援を求めた此の書翰は、康有為が受けた衝撃の大きさをよく示すものではなからうか。しかし、当時既に犬養毅は康有為と対立関係にあった孫文らの革命運動を支援していたのである。これらの事実をはじめ、この書翰に見える儒教と日本憲法・西人公法などの諸問題については別に詳論したいと考える。

なお書翰の左端に異なる筆蹟で小さく、「康有為字長素号南海」とあるのは、犬養毅が書いたものと思われる。書翰中の難読字体について、慶応義塾大学の志水正司・高橋正彦両教授および「光明日報」駐日記者の張可喜氏より教示を得た。ここに記して謝意を表する。



康有為の犬養毅宛書翰（縮尺 $\frac{1}{5}$ ）